

いわき産 水産物 農林水産 二

ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま

令和8年 8月号

Vol.258

発行日

2026/8/27

- 01 「サンシャインいわき梨」の選果が開始
- 02 各種取組の実績（7～8月分）
- 08 お知らせ
 - 08 どう漁業
 - 08 いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（7月）
 - 08 いわき地方の出荷制限等品目
 - 09 「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン告知
 - 09 まちメディア9月号 掲載記事
 - 10 ならではグルメレシピ紹介
 - 11 あとがき

「サンシャインいわき梨」の選果が開始

8月7日(金)

今季の日本なし出荷の幕開けを告げる選果場の操業開所式と、「サンシャインいわき梨」のベトナムへの輸出入発式が福島さくら農業協同組合いわき梨選果場で開かれました。

選果場は「幸水」から操業を開始し、「豊水」「あきづき」と続き、10月中旬頃の「新高」までリレー出荷されます。

今年の生育は順調で、例年より7～10日程度進んでおり、生産者が一玉ずつ丁寧に管理した果実は、糖度が高くジューシーに仕上がっています。

平成29年に始まったベトナムへの輸出は今年で9回目を迎え、しばらく後に出荷期を迎える「豊水」と「新高」が厳選されて現地へ送られる予定です。

生産者は、丹精込めた美味しい日本なしを、国内はもとよりベトナムの消費者にも味わっていただきたいと話していました。

当所では、引き続き「サンシャインいわき梨」の生産振興、担い手育成に取り組んでまいります。

（農業振興普及部）



▲輸送トラックの出発式の様子



▲今年初出荷の「幸水」

サンシャインいわき梨については、
P9の「まち・メディア掲載記事」もチェック！





福島県治山林道研究発表会

7月21日(火)

県林業研究センターにおいて、第44回福島県治山林道研究発表会が開催されました。この発表会は、職員等の技術向上や森林土木技術の発展を目的として毎年開催しており、森林土木業務（林道・治山・保安林・林地開発許可など）に携わる県職員等が、業務の課題に取り組んだ（調査・研究）結果の発表や、新たな技術や工法を採用した事例を紹介しています。

今年度は、ICTや土工における新工法の採用、法面保護工における特殊事例の紹介、帰還困難区域での事業の進め方など8つの発表がありました。当所からは、添田技師が「海岸防災林の排水対策結果及び松枯れの現状について」と題して新舞子海岸の防災林整備における取組結果を発表し、奨励賞を受賞しました。

県では今後も調査研究を進め、課題の早期解決と技術の研鑽に努めてまいります。
(森林林業部)



▲発表会の様子

花とふれあう！親子で学ぶサマーワークショップを開催

7月22日(水)

小学生の親子を対象とした「花とふれあう！親子で学ぶサマーワークショップ」をいわき市卸売市場で実施しました。本イベントは、県産花きへの理解促進を図るとともに、花の流通について知ってもらうことを目的に企画したものです。

当日、6組13名の親子が参加し、県内の花き生産の現状を学んだ後、花市場(いわき中央生花)で「セリ」を見学しました。子どもたちは「花の生産地」や「価格決定の仕組み」について熱心に質問し、生活に身近な花が届くまでのプロセスを学びました。

また、市内の生花店3名を講師に迎えたワークショップでは、県産の花き等を用いたフラワーアレンジメント体験をしました。プロの技術に触れながら、親子でバランスを考え、挿す場所を工夫するなど、花に親しむ時間を過ごしました。

開催後のアンケートでは、「楽しかった」、「福島県の花について知ることができた」等の感想がありました。

当所では、引き続き花きの消費拡大に向けた支援をしてまいります。

(農業振興普及部)



▲セリ見学の様子



▲アレンジメント体験終了後の集合写真

農林水産業振興計画いわき地方意見交換会

7月22日(水)

県では令和4年度からスタートした「福島県農林水産業振興計画」を周知するとともに、各地方の課題等を把握して次年度の施策に反映させるため、県内7地方で農林業者や関係団体との意見交換会を開催しています。

当所では、県いわき合同庁舎において、いわき地方意見交換会を開催しました。はじめに、県から農林水産業振興計画及びいわき地方の令和7年度実績・令和8年度の取組概要について説明した後、いわき地方の農林業の課題や必要な取組等について、意見交換がなされました。当日は、農林業者や市、関係団体の方々8名に出席いただき、それぞれの団体の取組や県への期待、担い手の確保・育成、ブランド力の向上等について、様々なご意見・ご提案が出されました。いただいたご意見等を今後の農林水産業に活かし、本計画の基本目標である「『もうかる』『誇れる』共に創るふくしまの農林水産業と農山漁村」を目指し、引き続き各種施策に取り組んでまいります。(企画部)



▲意見交換会の様子

若手職員研修会を開催

7月23日(木)

当所では若手職員を対象に、各種事業等の現場を体験する研修会を実施しています。本研修会では、事業への理解を深めるほか、若手職員の業務執行能力及びコミュニケーション能力の向上を図ることを目的としております。第1回目は農業振興普及部の職員を講師として「種子場（たねば）とほ場の状況確認について」というテーマで実施しました。

種子場とは、稲、麦、大豆等の主要作物の優良な「種子」を生産するほ場のことです。その種子場の状況確認は、品種の純度を保ち、病害虫に感染していない優良な種子を安定して供給する目的で行います。今回の研修では、大野種子生産組合のご協力のもと実際にほ場に入り、異品種の混入や病気の発生等が無いか確認しました。

今回の研修で参加者たちは水稻採種事業の現場について理解を深めることができたようでした。(企画部)



▲ほ場で異形株の抜き取りを行う様子



▲集合写真

福大食農学類とともに歩むプロジェクト 7月24日(金)・25日(土)

地域農業の課題解決を目的とした「福大食農学類とともに歩むプロジェクト事業」がいわき市主催で実施され、福島大学農学群食農学類の2・3年生が参加しました。

1日目の現地実習では、「いちじく生産班」「いちじく流通班」「とっくりいも班」の3班に分かれ、いちじく生産班及びとっくりいも班は生産現場を訪問し、生産者から栽培方法や管理作業について説明を受けたほか、いちじく流通班はマルト店舗にてアンケートの予備調査等を実施していました。各班がそれぞれのテーマに沿って現地で学ぶことで、生産現場における工夫や販売現場における消費者ニーズ等、農産物の生産・流通に関する理解を深めました。

2日目のグループワークでは、現地実習で得られた学びやアンケート調査結果を踏まえて、生産者、小売事業者、JA、行政関係者等と意見交換を行いながら、地域農業が抱える課題を整理するとともに、課題解決に向けた取組について議論を重ねました。いちじく流通班の学生からは、いわき産いちじくの若年層への認知度の低さなどが課題として挙げられ、その解決策として食べ方の提案やプロモーション等が効果的ではないかといった意見が出されました。今後も議論を重ねながら報告会に向けて取り組んでいくとのことです。当所でも引き続き協力してまいります。



▲いちじく流通班 グループワークの様子

(企画部)



▲福島大学農学群食農学類3年生と関係者



▲福島大学農学群食農学類2年生と関係者

福島くらし&就農フェア2026（移住就農相談会）

7月26日(日)

7月26日（日）に東京有楽町駅前の東京交通会館12階ダイヤモンドホールで、福島県主催による大規模な移住相談会を開催しました。

福島県農業経営・就農支援センターや移住サポート総合窓口、市町村ブース、先輩移住就農者ブースなどを含め41団体が出展し、いわき地域では2ブースを設置して相談対応をしました。来場者数は89人と大盛況で、いわきのブースでは、「専業で農業をやってみたい」や「いわきで盛んなトマトの農業法人に就農したい」等、様々な相談を受けました。いわきは住みやすそうな気候なので移住先として検討しているという相談者が多かったです。

今後もお試し体験やお試し就農等のイベントを通じて、いわきでの就農者を増やしてまいります。

(農業振興普及部)



▲就農相談の様子



第2回いわき地域新農業人レベルアップ塾

7月29日(水)

当所では、新規就農者が経営ノウハウや栽培技術を習得し、目標達成に向けてレベルアップするとともにお互いに交流を図ることを目的に年に5回の「いわき地域新農業人レベルアップ塾」を開催しています。

今回は、「農業機械の点検整備」をテーマにJA福島さくら夏井営農経済センターで開催し、農業総合センター短期大学校研修部の志村教務、緑川教務が「農作業安全のポイント」と「刈払機の点検整備のやり方」について説明しました。また、JA福島さくら営農経済部農業振興課の宗形営農指導員を講師として、VRを用いたトラクター事故体験をしました。参加者は、VRを付けて実際に運転しているかのような感覚になりながら事故を体験しました。今回の塾では、農作業安全や農業機械の使い方について理解を深めていただけたと思います。次回以降も新規就農者のレベルアップに向けて開催してまいります。

(農業振興普及部)



▲農業機械の点検整備の様子



▲VRを用いたトラクター事故体験

第2回いわき地域新規就農者等推進会議

7月30日(木)

県いわき合同庁舎において、「第2回いわき地域新規就農者等推進会議」を開催しました。

本会議は、いわき市、いわき市農業委員会、JA、福島県農業振興公社、指導農業士いわき支部、いわき地方振興局、いわき農林事務所の7組織で構成されており、新規就農に係る相談や、就農準備、就農後の定着に向けた支援等について情報を共有し、検討・協議を行っています。

今回は、4月から7月までの就農相談の内容や、いわき市で認定を受けた認定新規就農者の支援状況等を中心に情報を共有しました。いわき地域では、ねぎ、日本なし、いちご、いちじく、水稻、トマト等で就農した農業者への技術的アドバイスや経営支援活動を重点的に行っております。

農業法人への就職や自営就農、他分野からの法人参入として新規就農を検討している方や農業に興味がある方は、まずは農業振興普及部へご相談ください。(TEL: 0246-24-6162)

(農業振興普及部)



▲会議の様子



第1回トマトにおける環境制御技術研修会

7月30日(木)

サンシャイントマト出荷協議会の他、管内施設園芸生産者が、環境データを活用した栽培管理技術を習得し、収穫量、品質向上を図るため、JA福島さくら夏井宮農経済センターで、「トマトにおける環境制御技術研修会」を開催しました。

本研修会は、農業コンサルタント会社の(株)デルフィージャパンから講師を招き、現地研修と座学の2部構成で、月に1回のペースで年間8回を計画しています。

今回は、サンシャイントマト出荷協議会員、管内施設園芸生産者や関係機関等を含め28名が参加し、「強日射・高温対策」、「定植後の灌水」をテーマに講演いただきました。

植物の能力を最大限に発揮しながら、施設内の温度を下げるための方法や事例、栽培管理に重要な要素の計算方法など、生産現場ですぐに活用できる内容でした。

当所では、引き続き環境データを活用した施設園芸を支援してまいります。

(農業振興普及部)



▲現地研修の様子



▲座学の様子

いわき地方有害鳥獣被害防止対策会議

7月31日(金)

県いわき合同庁舎で、いわき市、全農、JA、共済、県などの関係者が参集し「令和8年度いわき地方有害鳥獣被害防止対策会議」を開催しました。本会議はいわき地方における農作物の有害鳥獣の被害を軽減するための取組を推進する会議です。

今回は、令和7年度の鳥獣による被害状況及び対策の実績、令和8年度の鳥獣被害対策に係る国や県の事業の活用、及び農業振興普及部で取り組んでいるモデル集落の活動について情報共有し、今年度の鳥獣被害軽減に向けて意見交換をしました。また、県いわき地方振興局からは、最近話題となっているクマについての注意喚起と対策セミナーの案内があるとともに、農業総合センターからは、「果樹園でのカラス類対策」や「二ホンジカに関する試験研究」の説明がありました。

当所では、引き続き鳥獣被害軽減のための支援を行ってまいります。

(農業振興普及部)



▲会議の様子



営農型太陽光発電の現地調査

7月31日(金)

営農型太陽光発電は、農地に支柱を設置して太陽光パネルを設け、その下で農作物を栽培しながら発電を行う仕組みであり、農業と再生可能エネルギーの両立を図る取組です。一方で、一部では栽培管理が十分に行われていない事例も見受けられることから、県では適切な栽培管理が行われているか現地調査を行っています。

今回現地調査を実施した、小川町で榊（さかき）を栽培して営農型太陽光発電を行っているほ場では、生育状況やほ場の栽培管理状況などについて聞きとり及び現地確認を実施した結果、営農が適切に行われていることを確認できました。

県では、引き続き営農型太陽光発電が適切に行われているかを調査・確認してまいります。（企画部）



▲生育状況や栽培管理状況について生産者に聞きとりをしている様子



▲太陽光パネルの下で、栽培されている榊

農業短大1年生が「福島農業」現地視察を実施

8月3日(月)

福島県農業総合センター農業短期大学の1年生がいわき市内の現地視察に訪れました。

同校では近年、非農家出身の学生が増えていることから、県内農業や農村の特性について理解を深め、将来の地域のリーダーとなる農業者を育成することを目的に、現地視察を実施しています。

当所では、市内の水稻、野菜、花き、畜産の各分野で先進的な経営に取り組む農業者を案内し、当該農家からは、経営方針や生産から出荷までの流れ、農業を生業としていく上で大切なことなど、普段の授業では聞くことのできないお話をさせていただきました。学生たちは、栽培技術だけでなく、農業経営や日々の生活など、農業のさまざまな魅力について理解を深めた様子です。

また、大型機械の整備状況や天井まで積み上がっている肥料袋を間近で見学し、学生から感嘆の声が上がる場面もありました。農業現場の実情や魅力に直接触れる貴重な機会となりました。

当所では、今後も関係機関や地域の農業者と連携しながら、将来の地域農業を担う人材の育成を支援してまいります。（農業振興普及部）



▲ほ場での質問の様子（畜産）



▲農業機械が置かれた倉庫を見学する様子（水稻）

どう漁業

7月からどう漁業の操業が始まりました。どう漁業とは、『どう（筒状の漁具）』にイワシなどの餌を入れて海底に沈め、魚を獲る漁のことをいいます。活きたまま水揚げすることができ、活魚の値段が高い「アナゴ」に適した漁法です。

海底に一昼夜沈めた約300個の『どう』は、毎朝船上にあげられ、餌を入れかえ、再び沈められます。多いときでは、一度に1,000尾ほどのアナゴを獲ることができます。

福島県水産海洋研究センターの研究報告では、旬とされる夏期のアナゴは、冬期に比べて脂質が多く、うま味成分であるアミノ酸も多く含まれていることが明らかとなりました。また、アナゴは「高タンパク」かつ「低カロリー」で、夏の栄養補給にぴったりですので、猛暑を乗り切る一品としていかがでしょうか。

(水産事務所)



▲海中投入前の船上の「どう」



▲どう漁業で水揚げされたアナゴ

いわき地方の農産物モニタリング調査結果（令和8年7月分）

□農林畜産物の検査結果

令和8年7月の農林畜産物モニタリングでは、5品目9検体を検査し、全ての検体について放射性セシウムは検出されませんでした。

内訳は（表1）のとおりです。

（表1）品目と検体数

タマネギ1、ピーマン（施設）1、大麦1、牛肉5、原乳1

□海産魚介類の検査結果

令和8年7月の水産物モニタリング検査では、115検体の海産魚介類を検査し、全ての検体について放射性セシウムは検出されませんでした。

いわき地方の出荷制限等品目

令和8年7月末現在、いわき地方の農林畜水産物のうち、出荷制限等の対象となっている品目は（表2）のとおりです。

出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することでもできません。また、自主検査等により基準値（100Bq/kg）以下であっても出荷・販売はできませんのでご注意ください。

（表2）農林畜水産物の出荷制限等品目（令和8年7月末日現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび（野生のものに限る）※1、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ※2
自粛	山菜	さんしょう（野生のものに限る）

※1 わらび（栽培）で出荷・販売できるものは、安全性が確認されたほ場で生産されたものに限りです。

（市内該当生産者24名のみ）

※2 野生きのこは、摂取も制限されています。

「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催します

J A福島さくら新鮮やさい館谷川瀬店にて、県産農林産物の魅力や市内生産者の認証GAPの取組を消費者に紹介する「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催します。

キャンペーン当日は、旬を迎えた試食用のいわき梨（豊水）等をご用意しております。併せて、アンケートにご回答いただいた先着150名様には6次化商品をプレゼントします。皆様のご来場をお待ちしております。

※内容は変更となる可能性があります。

(企画部)

■日時：9月5日（土）09：30～14：00
（配布物がなくなり次第終了）

■場所：J A福島さくら 新鮮やさい館 谷川瀬店
（いわき市平谷川瀬3丁目19-6）

■主催：福島県いわき農林事務所



第2回 **おいしい ふくしま いただきます！** **キャンペーン**

日時 **令和8年9月5日（土）9時30分～14時00分**
（配布物がなくなり次第終了）

会場 **JA福島さくら 新鮮やさい館 谷川瀬店**
（いわき市平谷川瀬3丁目19-6）

イベント内容

- ① 福島県産農林産物認証GAP、6次化商品のPR
- ② 梨（豊水）の試食
- ③ 6次化商品（赤しおシロップの炭酸割り）の試飲

GAPに関するアンケート に
ご回答いただいた方へ **6次化商品（赤しおシロップの炭酸割り）** をプレゼント！
先着150名

サンシャインいわき梨ってなあに？
いわき市の梨栽培は、江戸時代に豊後藩（現在の平・赤井・小川地区）の藩主が栽培を推奨したのが始まりと言われていて、県内でも歴史ある産地の一つです。また、県内で最も早い時期に出荷される産地です。
JA福島さくらいわき梨部会では、「サンシャインいわき梨」ブランドとして市場に出荷しています。「サンシャインいわき梨」として出荷される梨には、ロゴマークがついています。いわきの秋の味覚を是非堪能ください！

認証GAP【ギャップ】とは？
農林産物の生産工程を記録・改善していくことで、より安全・安心な農林産物を消費者の皆さまに届けるための取組です。

【主催・お問い合わせ】 福島県いわき農林事務所 企画部 ☎ 0246-24-6197

「まち・メディア」9月号 掲載記事

福島県いわき農林事務所

「サンシャインいわき梨」を紹介します！

いわき梨は、ご自宅用はもちろん、大切な方への贈り物としても喜ばれる特産品です。

果汁たっぷりでみずみずしく、口いっぱいに広がる上品な甘さが多くの人に親しまれています。

また、市内では幸水、豊水、新高、あきづきなど、さまざまな品種を栽培しており、収穫時期をつなぐことで、おいしい梨を長い期間楽しめます。

さらに、出荷前には透過式光センサーを用いて糖度を測定し、11度以上（ギフト用は13度以上）のものを厳選しているため、品質のばらつきが少なく、いつでも安定したおいしさを楽しめます。

生産者が一つひとつ丁寧に育てた、いわき自慢の旬の梨を、ぜひご家族やご友人とご賞味ください。

生産者紹介

梨生産者 長谷川農園

長谷川 章氏
長谷川 順一氏

生産者からの一言
甘くてみずみずしい梨が作れるように、土づくりからこだわっています。どの品種も美味しいですが、特にあきづきがオススメです。皆様、ぜひ食べてみてください！

販売店舗 ●新鮮やさい館 各店舗 ●ファーマーズマーケット いがっぺ

サンシャインいわき梨の主要な品種カレンダー

8月	9月	10月
幸水 ／シャリシャリ／甘い！	豊水 ／甘みと酸味の絶妙なバランス！	あきづき ／ジュシーで濃厚！ ／大きくて食べ応え抜群！
		新高

梨の品種の特徴

幸水	小玉	爽やかな甘みと柔らかい果肉が特徴
豊水	大玉	程よい酸味で引き立つ甘さ
あきづき	大玉	甘くて濃厚、ジュシーな味わい
新高	大玉	上品な甘みがあり、非常に大きく食べ応えあり



高校生発！Iwakiならではのグルメをつくろう レシピ紹介

地元農産物の魅力を発信するため、市内の高校生と飲食店等が共同でいわきならではのグルメを開発する、「高校生発！Iwakiならではのグルメをつくろう」。

今回は令和7年度に応募があったレシピの中から、「いわきの味噌ネギ こってり軍艦」をご紹介します！

Recipe

No. 05

いわきの味噌ネギ こってり軍艦



商品化

考案者：福島県立小名浜海星高等学校 3年 阿部 頼登（あべ らいと）さん

応募時



商品化

材 料（2人分）

米(Iwaki Laiki)	2 合
水	2 合分
長ねぎ	1 本
エリンギ	2 本
昆布だし	小さじ 2
酢	大さじ 2
砂糖	大さじ 2
塩	小さじ 2
ごま油	大さじ 2
みりん	大さじ 2
削り節	1 袋
みそ	大さじ 3
しょうが	小さじ 2
海苔	適量

つ
く
り
か
た

- ① 米を洗い、水と昆布だしを入れて炊く。
炊きあがったらそのまま10分ほど置いておく。
- ② ①に酢、砂糖、塩を入れてよく混ぜ合わせ、酢飯を作る。
- ③ 長ねぎ、エリンギ、しょうがをみじん切りにする。
- ④ ボウルに③、みそ、みりん、削り節を入れて混ぜ合わせる。
- ⑤ フライパンにごま油をひき、④を入れたら弱火で火入れしていく。
- ⑥ 海苔を切り、②の酢飯を巻いて軍艦にし、⑤の味噌ネギをのせて完成。

調理時間：60分

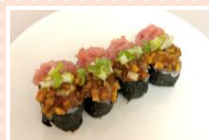
comment

ネギのお寿司を食べてみたくて考えました。
手に取りやすいと思うので、食事にもおやつにも手軽に食べてもらいたいです。

レシピを参考に作ってみました！

長ねぎのシャキシャキ感とエリンギのコリコリとした食感が
楽しい一品でした。おつまみにもピッタリだと思います。

(担当 S.M)



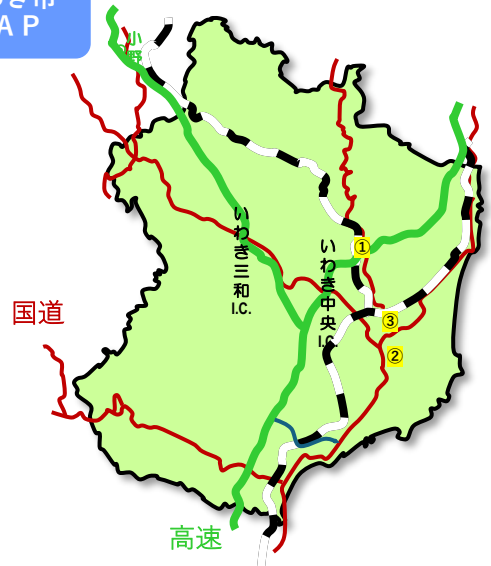
レシピ集はこちら！



今月号に掲載した場所はこちら！

- ① J A 福島さくら いわき梨共同選果場 (P1)
小川町西小川下蕪田 1 6
- ② (株) いわき中央生花 (P2)
鹿島町鹿島 1
- ③ J A 福島さくら新鮮やさい館谷川瀬店 (P9)
平谷川瀬 3 丁目 1 9 - 6

いわき市 MAP



あとがき



あとがき

例年と比べて猛暑日が少なく感じられた8月となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今月から梨の出荷が始まりました。いわきでは「サンシャインいわき梨」として、様々な品種の梨を長期間に渡って楽しむことができます。

そして、いわきの梨をPRするため、9月5日に「おいしいふくしまいただきます！」キャンペーンを実施します。梨の試食も予定しておりますので、皆様ぜひお越しください。秋の味覚を楽しみましょう。

(担当S.M)

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)
T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196
U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース

Follow me!
フォローお願いします！

Instagram・Facebookで
いわきの農林水産業の
旬な情報を発信中！

Instagram



Facebook



福島県農林水産部
公式YouTubeチャンネル
「1400のネタばらし」
動画はこちらから！

